



# 地球を**開**けよう

ジャパンファウンデーションは、  
文化という国際公共財を通じて、人と人との交流を促進し、  
相互理解と対話の輪を広げるために力を尽くしてまいります。

ジャパンファウンデーションは、文化を通じて日本と世界の人々間の対話と交流を促進し、世界平和の実現に寄与すべく、文化芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流等の分野において、国際交流の触媒として活動している機関です。1972年の創立以来一貫して、人と人との交流を進め、国際文化交流事業を行ってきました。

2003年10月にジャパンファウンデーションが独立行政法人となり、新しいスタートを切って以来進めてきた改革への努力は、まだまだ止まることはありません。2005年は日本全体にとって改革の年であったと言えます。ジャパンファウンデーションにおいても、更なる改革の年としてこれを捉え、組織、人事、事業の各面において改革を実行しました。

たとえば、できるだけ柔軟に助成事業を行えるよう、また、できるだけ利用者の方々にとって活用しやすい事業形態とするため、数多く複雑だった申請プログラムの統廃合を行い、その結果、前年度までは196もあって複雑だった事業プログラムを、約4割の92に整理することができました。

あるいは、人事の分野においては、新設した人事制度改革委員会から答申を得、これに基づき今度は人事制度改革推進本部を立ち上げて、抜本的な人事改革を実行中です。

また、経営面においても、同様に経営改革諮問委員会を創設し、公共性を備える国際交流基金の運営に、同時に「民」の柔軟な発想も取り入れるべく、いかにこれを両立させるかを目下議論しているところです。

ジャパンファウンデーションは、改革のための改革ではなく、常に将来への展望を持つ改革を目指しています。

新しいビジョンの一つとして、ジャパンファウンデーションは、中長期的な地域戦略を策定しています。文化交流を通じて国同士の摩擦を軽減させることを目的に、2005年には中国と韓国の両国向けに5か年計画と、この計画を実行するための特別業務室を新しく作りました。中国については、新たな交流のため、100億円の新基金も設けています。あるいは中東においては、自衛隊のイラク派遣を踏まえ、広い意味で日本をより深く理解してもらえるよう、イラクの子どもたちに絵本を寄贈するといった事業も行いました。

もう一つの新ビジョンとしては、新しい文化外交、平和のための文化交流があります。インドネシアと東ティモールの難民キャンプに日本の子ども向け劇団を派遣して公演を行ったり、サッカーの試合を通じてパレスティナとイスラエルの和解を図るプログラムを助成したりといった新しい試みを始めています。

更に先のビジョンとしては、海外におけるネットワークの強化が挙げられます。限られた資源を有効活用し、世界の要望にいかに対応していくかが、これからの課題です。

本年次報告は、2005年度にジャパンファウンデーションが行った改革、事業、財務・組織・統計等について報告するものです。世界のあちこちから、時間と空間とを飛び越えて多岐に亘る活動を展開しているジャパンファウンデーションの新しい側面を、この冊子の中に発見していただき、同時に、国際文化交流の意義と楽しさを感じ取っていただければ幸いです。

2007年2月

国際交流基金  
(ジャパンファウンデーション)

理事長 小倉 和夫

